



第38回卒業証書授与式 式辞

耳を澄ませば、そこかしこに春の躍動の足音が聞こえます。上柴中学校にも旅立ちの時がやってきました。今、ここに卒業証書を授与された183名の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業、おめでとうございます。晴れの門出を心より祝福いたします。

ただ、この良き日に、多くのご来賓の皆様や保護者の方々、そして在校生とここで共に門出を祝福できないこと、校長として、まずお詫び申し上げます。思い返せば、皆さんの中学時代、後半2年間はコロナに翻弄され、やりたいことができない忍耐と辛抱の日々でした。この逆境に対し、私は、ラグビー日本代表の教え子や体操の内村選手を例に「彼らは自分の不利な状況や逆境を試合に負ける言い訳にしない。それどころか、勝つための力にしている。」と言って、皆さんに「下を向くな、前を向け。矢印は自分に！」と言い続けました。皆さんはその言葉に応え、様々な行事の自粛の中、後ろ向きにならず、前を向き、辛い気持ちを切り替える努力をしてくださいました。100m日本記録保持者の山県選手は、「逆境でこそ、自分を変える。何かを変えることにに対して恐れたくない。乗り越えた先というのは必ず前より強い自分がいる。」と言っています。私がラグビーの試合前、相手が強ければ強いほど、よく子供達に「試練は乗り越えられるもののみに与えられる。」こんな話をしました。皆さんはまさにその試練を乗り越え、大きく成長しました。

さて、今、卒業生に渡した卒業証書は皆さんの義務教育終了の証です。それには、皆さんの努力の成果とお世話になった人達の思いやりが詰まっています。家族の愛情・優しさ、友達や先生方の励ましを受け、皆さんは心身共に成長し、今、上柴中を巣立ちます。人は一人では生きていきません。常に誰かの支えが必要で、特にお父さんお母さんは特別です。先日、私は母を亡くしました。私がこの3月で定年を迎えたら、ゆっくり親孝行ができると思っていた矢先のことです。死に目にも会えず、「ありがとう」の一言も言えませんでした。私は、教師だった母を見て、「生徒と共に夢を語れる教師になりたい」という夢を持ちました。そして、その夢の第一章はこの三月で完結し、それは我が息子に引き継がれます。皆さんにも、その成長を願い見守り、支えてくれた大切な親御さんがいます。恥ずかしがらず、言うべき時に素直に「ありがとう」と言ってみてください。私のように後悔することのないように。「感謝の心が人を育て、感謝の心が自分を磨く。」と言います。皆さんのかたわらに座っている先生方もそんな感謝に値する存在だと思います。

皆さんは、この3年間、校訓「夢・志の実現」を目指し、絆を深め、前向きな学校生活を送りました。今年を振り返ると、まず、思い出されるのは、部活動。昨年の先輩の悔しさを受け継いで、最後まであきらめず気持ちを全うしてくれました。もう一つは、上中伝統の20^{キロ}ハイク、秋の澄んだ青空の元、強風と22.6^{キロ}という距離との闘いにほとんどの生徒が勝利できました。この三年間、コロナ禍の中、行えた行事は限られましたが、皆さんは最高学年として、私達が上中を引っ張っていくという「誇りと自信」伝統を引き継ぐという「責任」をみなぎらせ、それを後輩たちに、後ろ姿で示していました。上中がONE TEAMになれる素晴らしい瞬間を創造し、活動すべてが下級生の手本、上柴中の伝統となりました。



私は皆さんと共にこの学校に来て、ラグビーを通して皆さんに様々なメッセージを伝えました。戦った後は敵さえ仲間として人として尊敬する「ノーサイド」、一人はみんなのために、みんなは一つの目標のためにという「One for all, all for one.」、自らの強みを人の為に全うし身体を張る「自己犠牲」、そのどれもが人として大切な心の姿勢です。ラグビーW杯日本大会で日本代表は多くの人に感動と勇気、元気を与え、ONE TEAM となり大きな敵に立ち向かう直向な姿はお互いを尊重し、信じ合うことの素晴らしさ、「思えば叶う」という自信を私達に与えてくれました。あと数日で私の教員人生は幕を閉じます。この36年、終始一貫して子供達に言い続けてきたこと。

それは「逃げるか進むか迷った時は一歩前へ進め。」「迷ったら前へ」ということです。どちらを選んでも人は後悔します。ただ「『挑んだ後悔』は生きる力を与え、『逃げた後悔』は明日に向かう力を奪う。」と言います。全然質が違います。

最後にもう一つ、この3年間毎回卒業式で話してきた話をします。それは2016年53歳という若さで惜しまれつつ亡くなった不世出の天才Mr ラグビー平尾誠二氏の話です。彼は「理不尽に勝つ」という著書で、「人間は生まれながら理不尽を背負っている。平等に生まれてはこないからだ。でも我々はそれでも前を向いて生きていかなければならない。自分が恵まれていないから、恵まれている人を羨んでも、虚しさが募るだけ。大切なのは夢を持ち続け理不尽に打ち克ち、夢を実現しようとする。その過程にこそ、生きることの醍醐味がある。誰かのせいにしたくなるけど、それでは何も変わらない。状況を変えるには、自分が変わるしかない。人は理不尽を経験し鍛えられ強くなる。それが大きいほどに打ち克った時の喜びは大きい。プレーの未熟さを人のせいにする選手は才能があっても成長はない。『矢印は自分に向けろ。』ということ。理不尽に耐え、乗り越えた時、それは大きな自信になる」こう言っています。



ご列席の保護者の皆様、立派に成長されたお子様を前に感慨深くお慶びのことと思います。皆様の脳裏には、お子様の成長を見守り、今日を迎えるまでの様々な思い出が浮かんでくることでしょう。今までのご労苦に敬意を表しご卒業を心よりお祝い申し上げます。結びに、保護者の皆様の本校の教育に寄せられたご理解とご協力に深く感謝いたしますと共に、卒業生の皆

さんのご活躍とご多幸を願い、式辞と致します。

令和4年 3月16日 深谷市立上柴中学校長 宮前 日出男